

2. 事業の概要と成果

(1) 上位目標の達成度

上位目標「首都キガリの人々の雇用および収入創出の機会が増大する」に対して、3年計画の最終年である今期は事業内容を着実に実施すると同時に持続発展性に向けたハンドオーバーにも力をいれた。

フェーズ3訓練全体では1,871,800RWF(約253,546円)の収入があり、訓練生が一人あたり平均約64,544RWF(約8,742円)を得ることができた。

フェーズ3は上級コースという位置付けで、ある程度の洋裁基礎力を持つ29名の訓練生にさらなる高度な技術指導として製図指導を重点的に行い、洋裁の中でも最も難しいとされる製図製作の基礎力をつけることができた。

フェーズ1, 2同様、フェーズ3修了生も希望者はキガリ市内の洋裁アパレル店で、1カ月の企業内実習(Industrial Attachment)の機会を得て、参加中である。

フェーズ1, 2修了生らは、キガリ市、ガチュリロ職業訓練センターおよびルワンダ組合庁の協力で新規洋裁組合を開設し、ルワンダ政府からの貸付金を利用して洋裁資機材を購入し、店舗兼工房も構えた。現在、キガリ市内の学校の制服を受注したり、メンズやレディースの洋服販売も行っている。同組合では本事業洋裁訓練修了生に加え外部洋裁経験者も受け入れて、主にルワンダ人顧客をターゲットに、ルワンダ人のみで運営を行っており、加入者は既に100名を超え、一人あたり平均月額40,000ルワンダフラン(約6,000円)程度の収入を得ている。

フェーズ3期間内に実施したヒアリングによるフェーズ1, 2修了生の就職状況は次の通りである。

(フェーズ1修了生 48名)

洋裁組合加入：21名

リボーン・京都フェーズ3洋裁専門家として雇用：1名

リボーン・京都フェーズ3洋裁アシスタントとして雇用：2名

中国系大手縫製工場勤務：2名

ルワンダ系縫製工場勤務：2名

大学進学：2名

結婚、子育て、洋裁以外の仕事、不明：18名

(フェーズ2修了生 50名)

洋裁組合加入：29名

リボーン・京都フェーズ3洋裁アシスタントとして雇用：4名

組合には加入していないが独自に洋裁の仕事を行っている：5名

フェーズ2訓練終了後、フェーズ3訓練生として訓練に参加かつ独自に洋裁の仕事も行っている：1名

ルワンダ系縫製工場勤務：1名

洋裁以外の仕事に就いている、または不明：10名

フェーズ1, 2修了生については、訓練終了後、洋裁関連の仕事に就いているのは98名中68名で、全体の69%におよぶ。

(2) 事業内容	(1) 高度な日本の洋裁技術習得訓練 (2) 現地洋裁専門家への TOT : Training of Trainer (3) ビジネス強化ワークショップ (4) プロダクション・ユニット結成 (5) made in Rwanda 製品の製作・販売 (6) 1 年次・2 年次訓練修了生のフォローアップ (7) 品質評価および販売会議 (8) 洋裁指導責任者特別授業 (9) 製作披露発表会
(3) 達成された成果	成果 1 : 高度な洋裁技術を習得した人材が育成された 指標 1－1 a : 訓練開始時訓練生数 24 名中 2 名が家庭の事情により自発的に途中で訓練を辞退したが、その後フェーズ 1, 2 修了生の中から 7 名が訓練に加わり、合計 29 名が訓練を修了した。最初から最後までフェーズ 3 訓練に参加していた訓練生では 91% が訓練を修了した。 指標 1－1 b : 訓練期間中より訓練生の 90% (29 名のうち 26 名) が定期、不定期にかかわらず、洋裁店での仕事、市場での服作り、組合活動、自宅で注文を得るなど就労や収入の機会を得ていた。 指標 1－2 : 洋裁技能レベル 5 段階の 4 以上を修了生の 100% が達成した。 (洋裁技能レベル基準) レベル 5 : 製図に寸分たがわず縫い上げることができる。柄合わせがきちんと出来ており、仕上がりがほぼ完璧である。 レベル 4 : 指示通りには縫製ができるが、細部に渡る配慮が足りないために仕上がりが完璧ではない。 レベル 3 : ある程度指示通りに縫い上げることができる。 レベル 2 : 指示通りに縫製ができず、ミスの多い状態で作品が仕上がってくる。 レベル 1 : 縫い上げるまでに生地には傷を付けてしまう等、ほぼ修復不可能な状態で縫い上がってくる。 成果 2 : 洋裁技能レベル 5 同等の現地洋裁専門家が育成された 指標 2 : 洋裁技能レベル 5 の現地洋裁専門家が育成された。 成果 3 : made in Rwanda 製品が開発された 指標 3－1 : ルワンダの伝統生地「ギテンゲ」およびルワンダのシルク「ウムシャナナ」より、以下の 9 点のオリジナルアイテムが開発された。 1. ギテンゲ・フレアスカート 2. ギテンゲ・カフェエプロン 3. ギテンゲ・エコバッグ 4. ギテンゲ・コースター 5. ギテンゲ・ランチョンマット 6. ギテンゲ・前ファスナーワンピース 7. ギテンゲ・ジャケット

	8 ウムシャナナ・ロングドレス 9 ウムシャナナ・ワンピース 指標 3-2 : 開発製品の評価が 5 段階評価レベルの最高評価 5 を得た。 (評価レベル基準) レベル 5 : 品質、デザイン上、海外 (先進国) 市場で流通できる。 レベル 4 : 品質、デザイン上、ルワンダ中流階級以上をターゲットに、ルワンダ市場で流通できる。 レベル 3 : デザイン面あるいは品質面で再考慮の必要があるもの。 レベル 2 : デザイン面および品質両面で再考慮の必要があるもの。 レベル 1 : ルワンダローカルマーケットで現在流通している商品。 成果 4 : 訓練修了生の雇用と収入創出へと繋がる。 当初予定していたプロダクション・ユニットは、ガチュリロ職業訓練校主導による組合の中に吸収され、今後も修了生達が協力して活動を行う場となっている。 指標 4 : 訓練生の 90% が訓練期間中より、洋裁技術の活用による収入や就労の機会を得ていた。
(4) 持続発展性	事業で投入したマシンなど洋裁資機材は全てカウンターパートでありかつ事業実施地でもあるガチュリロ職業訓練センター (ルワンダ教育省およびルワンダ職業開発庁管轄) に委譲した。事業終了後はガチュリロ職業センターがルワンダ職業開発庁の協力のもとこれら資機材を活用し、かつ本事業で育成したルワンダ人洋裁専門家を雇用して高度な洋裁技術訓練を継続する。現時点の予定としては、ガチュリロ職業訓練センターが 2016 年 9 月に新規訓練生募集を行い、授業料を集めて、ルワンダ国内で入手可能な洋裁資機材を調達して、ルワンダ人メンバーのみで年内にも訓練を開始する予定である。 フェーズ 1、2 修了生が中心となって結成された洋裁組合は既に機能しており、外部希望者も組合員として受け入れており、本事業で習得された日本の技術は洋裁組合を通じても広がりつつある。 フェーズ 3 修了生は組合のような大規模なものではないが、セキュリティ面で安全と思われる代表訓練生 2 名の家にグループ活動の拠点となる場を設け、修了生の中から希望者の誰もが無理なく洋裁を続けていくことができる環境を整えた。今後はグループ参加メンバー全員で話し合いを行いながら活動を行っていく予定である。